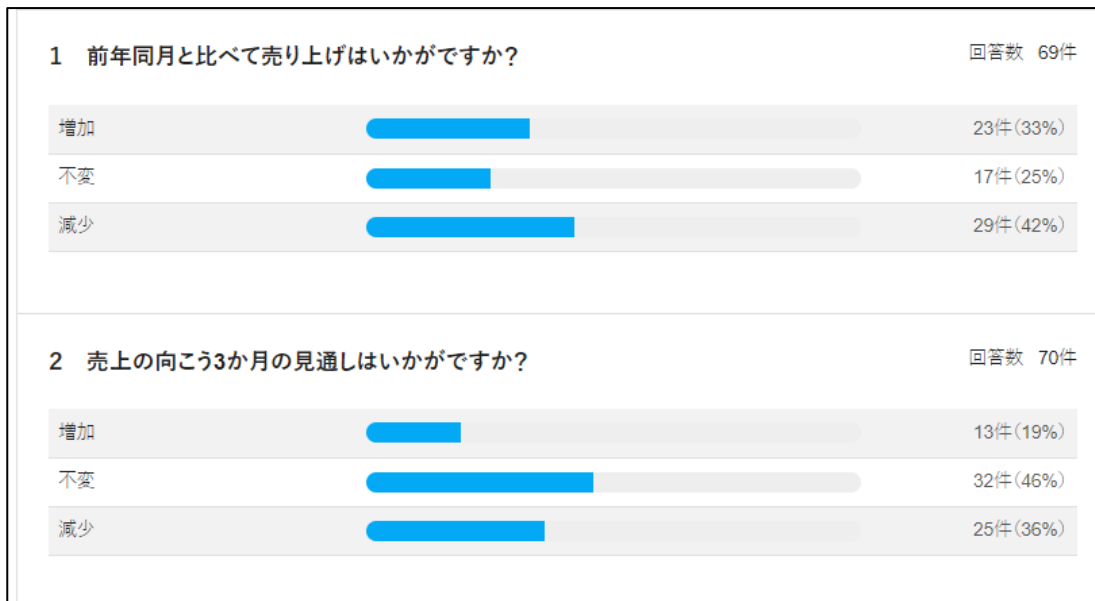


あかいわ商工会 2月景気動向調査概要

1 前年同月と比較して売り上げはどうか？ という問いに対して、減少しているが42%と最も多い回答となったが、増加という回答が33%あり、景気の回復が感じられた。

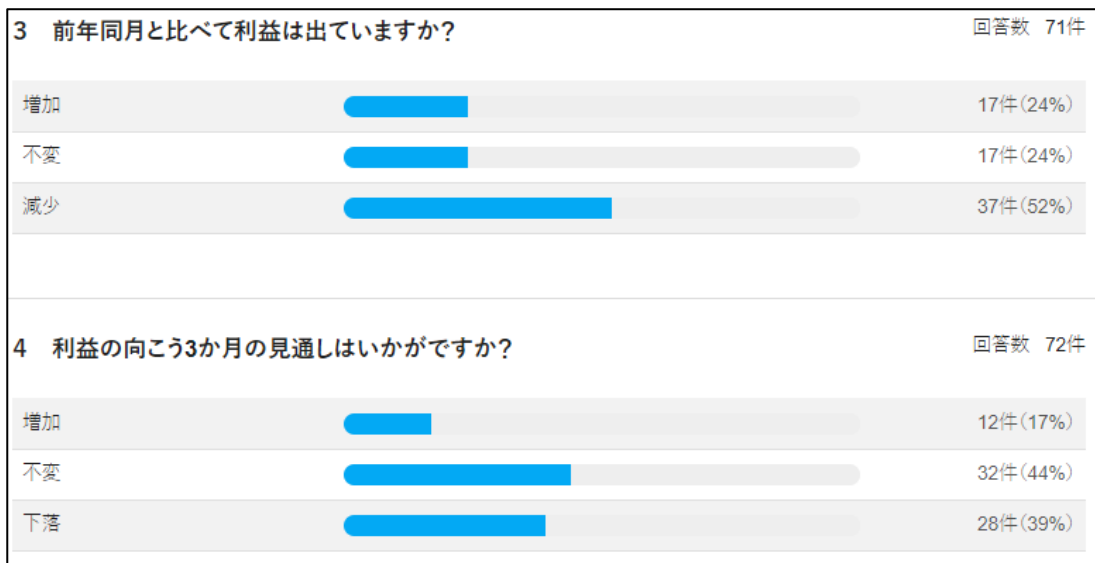
2 今後3か月の売上の見通しについて聞いてみると、変わらずと回答した者が46%と最も多く、次いで減少が36%となった。

このことから、景気回復基調ではあるが、依然として本会エリアの中小、小規模事業者は厳しい状況であることが読み取れる。



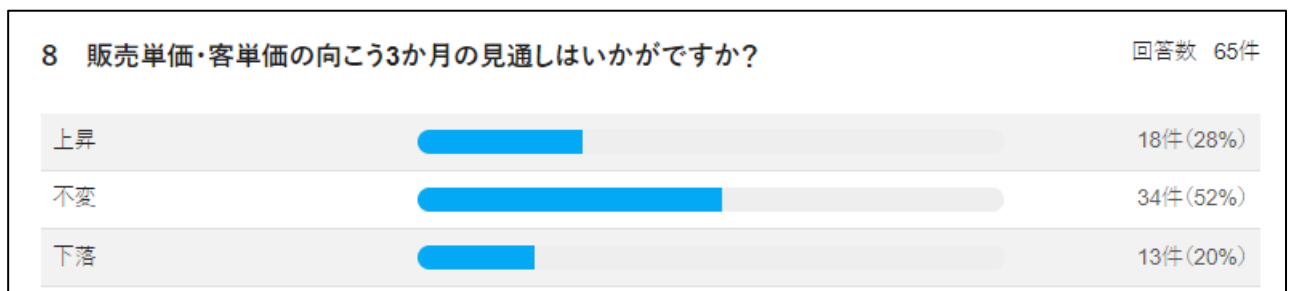
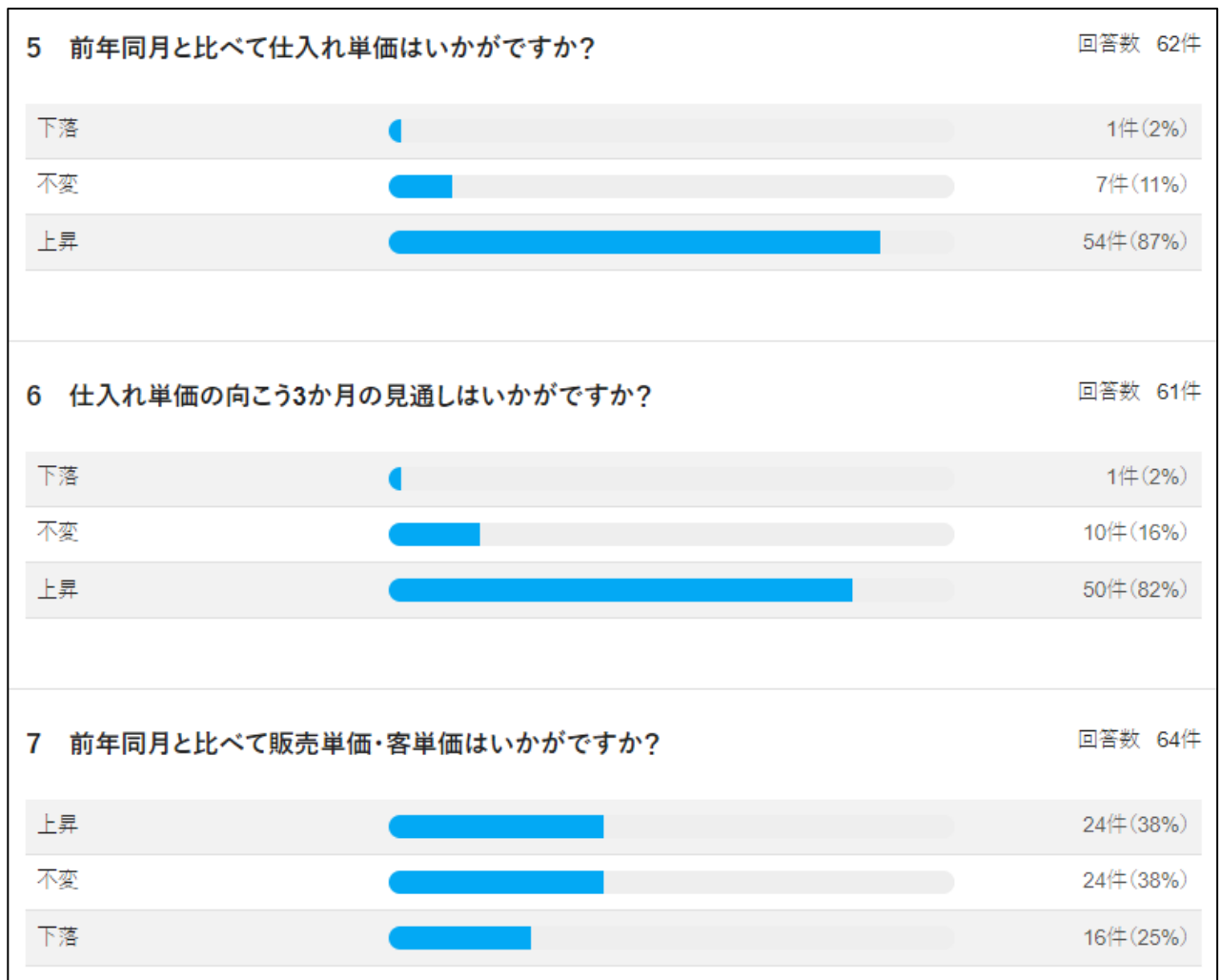
次に利益について聞いてみたところ

3 前年同月と比べて利益が減少しているが52%と最も多く、増加した事業者は24%に留まった。



4 利益の向こう3か月の見通しを聞くと、不変が44%、下落が39%となっており、この2つを足すと回答者の83%が利益は減少すると考えており、景気の回復が利益までは反映していない。さらに、このことは次の仕入れ単価についての回答からも読み取れる。

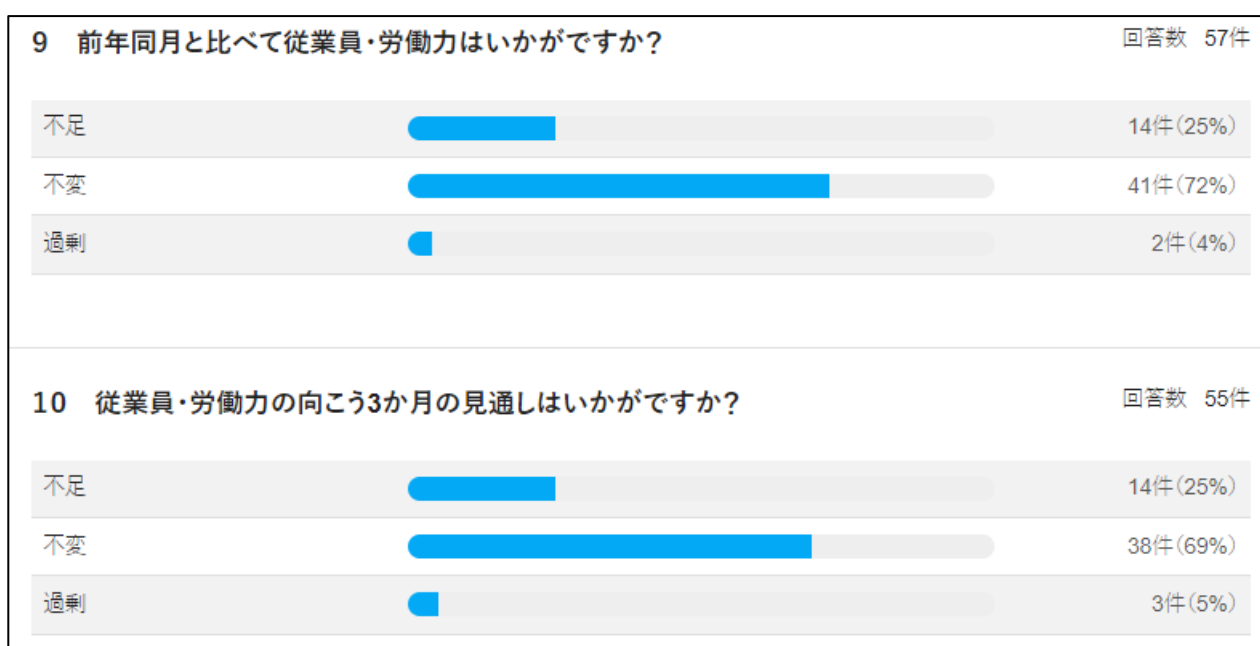
仕入れ単価について聞いてみると、仕入れ単価が上昇したと回答した者が87%となっており、向こう3か月の見通しは不変と上昇を合わせると98%が単価アップ又は高止まりしていると回答している。



では、次に7 前年同月とくらべての販売単価・客単価について聞いてみると、上昇と不変が38%と同じとなった。向こう三か月の状況を聞いてみると不変が52%となっている。

さらに、詳細な調査が必要ではあるが、コスト上昇分を転嫁できた程度であり、十分な利益の確保につながっているとはいいがたい。

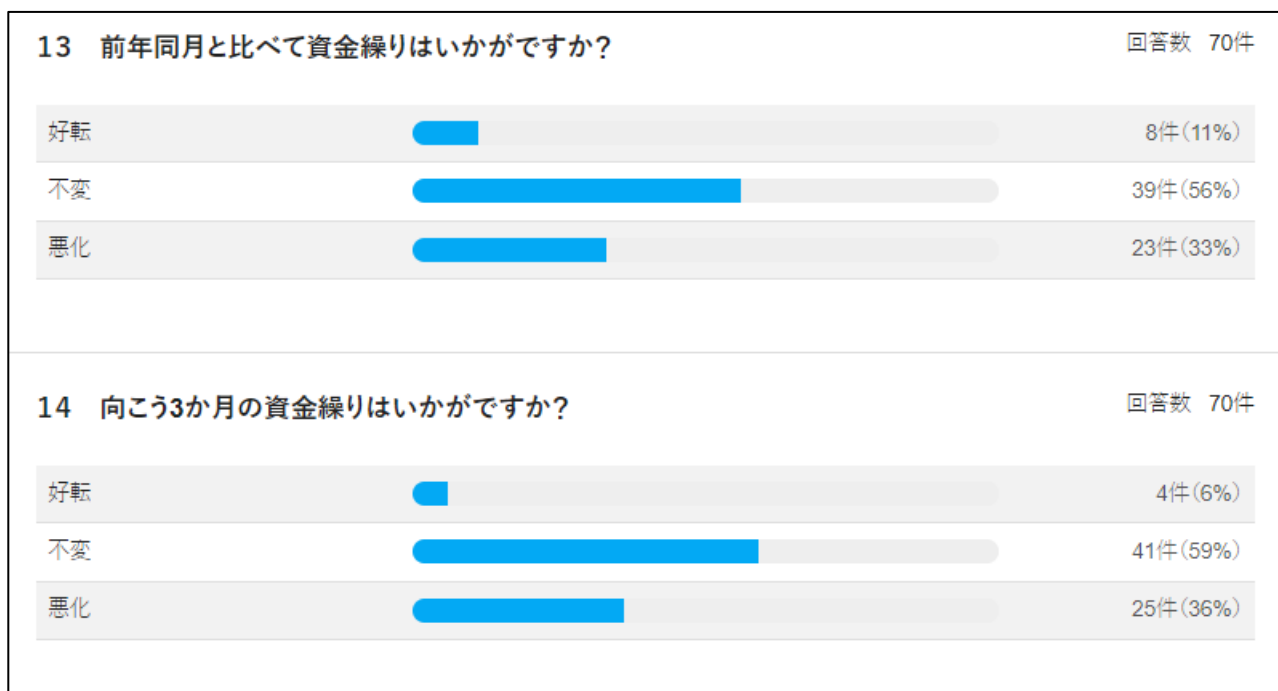
次に、9 雇用の状況について聞いてみると、7割が不変、つまり足りているという回答であった。しかし、不足が25%あり、今後3か月の見通しもほぼ同じ状況であった。これは、回答者に小規模事業者が多いため、家族経営であることから不変と回答し、従業員を雇用している事業者は不足と回答をしたと推察できる。



次に、13 資金繰りについて聞いてみると56%が不変、悪化が33%。また、向こう3か月の資金繰りについては59%不変、36%が悪化と回答している。

不変の内容を分析する必要があるが、1つはゼロゼロ融資の据え置き期間によって返済が始まっていないため変わらずと回答してる場合と悪化している状態が続いており変わらないと回答している場合があると推察できる。

よって、4月以降ゼロゼロ融資返済開始後を注視する必要がある。



最後に、賃上げについて聞いてみたところ、賃上げを行うと回答した事業者が29%あり、労働力が不足していると回答した割合と賃上げを行うと回答した割合が近似値となった。

不足している事業所は積極的に賃上げを行い雇用の確保を行っていく意欲を感じられる。

